

第4回石狩市地域自治システム検討会議会議録

【日時】 平成25年11月27日(水) 10:00～

【場所】 石狩商工会議所 3階大ホール

【出席者】 竹口委員、池田委員、酒井委員、中島委員、貝田委員、米倉委員、羽田委員、阿部委員、北原委員、廣長委員、高野委員、上ヶ嶋委員
(事務局 森本・山田・清水、畠中、門井)

【欠席者】 嶋田委員、遠藤委員

【オブザーバー】 佐藤教授、加藤部長

【会議内容】

■次第1 開会

■次第2 議事

① グループ討議

～ 事務局から資料4の説明 ～

～ グループ討議・発表 ～

■グループ発表（B班）

《畠中主任》

討議中、「地域自治システムの必要性がわからない」という意見があり、「地域自治システムの目的やメリット」について改めて話し合いをしました。

その中で、地域でネットワークを築くことにより、例えば、災害等の有事の際、情報共有により対応ができ、また、「いろいろな団体が連携することにより、地域で新たに解決出来る課題等も出てくる可能性がある」、「市が出来ない地域課題に取り組むことができる」、「地域の方が何かやろうとした時に、どこの、誰と話をしたらいいかわからないことがあったが、このネットワークで窓口が明確になる」といった意見が出されました。

必要性については概ね理解され、今回のテーマに移っていく中で、結論として「地域にコーディネーター、つまり旗振り役が必要だ」ということになりました。取り組む課題に応じたコーディネーターが決まることにより、必然的に構成メンバーが誰になるか、地域の広さやどのようなものが必要になるかが明確になるのではないかと。

まずは、コーディネーター役をきちんと決めることが一番大事だということになりました。コーディネーターの選任に当たり、役職のある方の宛て職ではなく、市が公平な視点で、専従若しくは賃金を払い委嘱する形で地域の方をお願いする方法が良いのではないかと意見が出されていました。

例えば、福祉分野等に取り組むのであれば、社会福祉協議会が行っている地域福祉コーディネーターの方がコーディネーター役としては適任といった意見が出されました。

地域における課題やテーマがいろいろある中で、このコーディネーターの方をどう決めていくかが、今後の検討課題としてあげられました。

《羽田委員》

コーディネーターは、誰がどのように選ぶかですが、定年退職者が「その後も社会に役立つことをやりたい」場合に、賃金などによる保障があることでさらに地域に還元できるのではないかなど。また、最終的には「人」ですから、どんな人がコーディネーターになるかで、このシステムは違ってくるのではないかと、既存の団体から「はい。この人」ということにはならず、どのような形で決めたらいいのか、賃金を伴いながら、コーディネーターを選任しないとこの仕組みはできないというのが最終的な結論でした。

■グループ発表（A班）

《門井主任》

私たちの班では、協議ポイントに沿って順番に話を進めました。

まずメンバーについてですが、町内会は外せないだろうという意見が出ています。やはり、地域のことをよく知っているのは町内会なので、連町単位になるか個々の町内会になるかは問わず、町内会は必須ではないかという意見が出ていました。メンバー構成は、団体に属している方だけではなく、地域の代表者が良いと思う方を、地域課題に合わせて加える方法ですとか、各世代がまんべんなく参加できるように、地域の代表者が個々に声をかけてメンバーを構成していくようなやり方もあるのではないかと思います。それと同じような形で、団体に属していない一般の方もメンバーに加えてもよいのではないかと意見も出ています。これに関しては、エリア・事務処理の部分にも関わる話ですが、例えば、エリアによって解決したい課題は異なるはずなので、それにあわせて先導者や事務処理担当者が変わってもよいのではないかと意見が出ております。

ただ、メンバーの話の中で、こちら班でも最終的には全体をコーディネートする人が必要だという意見があり、核の核は誰なのか、先導していく人は誰なのかという議論は出ていました。また、難しいことを考えずに、「まずは皆で集まって何かやろう」ですとか、「まずは動きながら考えよう」ということで、「この地域会議には、ある程度走りながら考えるという柔軟性も必要」との意見も出ていました。

次に、意見の吸い上げ方法ですが、例えば一般の方が参加するのであれば、このようなワークショップ方式で会議自体を進めると、細かい意見も吸い上げることができるのではないのでしょうか。またアンケートを実施すると、一般の方の意見も吸い上げられるのではないかと思います。ただ、このようなやり方より、一番効果的なのは、思いのある人の口コミが一番だろうと思います。地域代表者が良いと思う方を引き入れる、実際実施している、動いている方の口コミ、顔を合わせて知っている方からの声かけが一番効果的だろうという意見が出ていました。

他には、地域自治システムの内容自体を回覧や広報などで、一般住民に知らせる手立ても考えなければならないという意見や、既存団体の調整についても必要だろうという意見が出ています。

地域会議の中に、各団体の方が構成メンバーとして入るのであれば、団体の連携に関しては、そのメンバーの中に任せれば連携が取れるのではないかと意見や、小さな団体の調整に関しては、手上げ制にして、入りたいというところが自由にメンバーに加わるようなやり方をしてもよいのではという意見が出ております。

次に事務処理についてですが、ここでは行政の支援が必要だろうという意見が多くありました。例えば連合町内会の事務局のように、行政に嘱託職員でもいいので担当者を配置してもらえると

非常に助かるという意見がありました。ただあくまで地域のことは地域でやるのが重要なので、市役所の職員は総合的な調整に過ぎないので、エリアごとの細かな調整については、住民が自分たちで行う必要があるという意見がありました。

それからエリアに関しては、地域が自分達でエリアを決めるのは重複の可能性もあり、難しいのではないかという意見があります。ある程度行政が提案して、それを修正できるような柔軟性を持たせた方がよいのではないかという意見です。

また、行政に対しての意見として、現在この地域自治システムは企画経済部が中心となって進めているようだが、色々な地域の困りごとを解決するには、行政の福祉部門や教育委員会等からも意見を聞きながらエリアを決めるべきではないかという意見をいただいております。

その他としては、「地域会議の中身は、各地域で自由に変えてよいのか」という疑問点が出ています。あくまで地域自治システムの場合、最終的に市から権限や予算の移譲を受けるということであれば、何でも自由に設定できるわけではなく、例えば、市がある程度決めた枠組みの中で組織を作らなければ、市も権限や予算の移譲ができないのではないかという意見です。しかし、そうすると各地域の自由度が無くなってしまいうから、規則などはつくり、本当に自由にエリアごとに地域会議を自由に作ったほうがいいのか、そのような意見が出ました。

《アドバイザー 佐藤教授》

今日は、具体的な話であり、一つのグループでは「どのようにスタートするのか」「とっかかりをどうするのか」というお話しが出ていました。これは重要なことと思えました。最初から、がっちりした地域会議で始めるのか、ある程度骨格を決める程度で、それぞれの地域で応用していくのか、その当たりで考え方が違ってくると感じました。

個人的には、がっちりした地域会議より、地域課題も違いますので、メンバー構成も地域で違ってきますので、がっちしていなくても良いのではないかという感じはありました。

もう一つのグループは、エリア設定の話が出ておりました。皆様方は、地域や事情を色々ご存じですが、一般住民がどれだけ知っているのかということをお伺いいたしました。例えば、一般市民向けに「石狩市はこういうところです」という見学会やツアーは、特に実施していないという話であり、一般市民は、実のところ、石狩市自体をよく知らないかもしれないという問題があると感じました。

エリア設定で、「なぜ、こことここが一緒になるのか」という話が出てくる印象を受けました。

これは難しいことかもしれませんが、市民に、石狩市はこういう所ですということを知らせていくのか、見学会等でなくても、お金のかからない方法で知っていただく方法はないのか、地域会議とあまり関係ありませんが、地域を知ってもらうことが地域会議をつくる上で重要という印象を持ちました。

一つのグループで出ていた「地域自治システムの必要性」は、何か困ったことがあれば「一緒に集まって何かやらなければ」となりますが、特に困ったことがなければ、「なぜ今そのようなものを作らなければいけないのか」ということになりがちです。

東日本大震災以降、想定外は許されないということであり、「そこまで考えなくてよいのでは」ということもあります。いろいろな意味で危機管理を想定しなければならなくなってきました。どこまで想定するかという問題ですが、いろいろなことを想定していくことが大事です。

今困ったことが無くても、将来、困ることを考え、災害のみならず、高齢社会の問題など、具

体的に地域をブロックに分け、どれくらい高齢者がいるのか、一人暮らしの人がどれくらいいるか、おそらく市役所では把握していると思いますが、孤独死の問題もあり、割と近い将来起こりうることを想定内しなければならない。どう解決したらよいか考えなければならない。地域として対応しなければならない課題は多いと思います。その意味では、この会議は大事ではないかと考えました。

地域会議と直接関係ありませんが、集まって話をするにより、1人2人では出てこなかったアイデアが出たり、結構斬新で役に立つアイデアになることが、おそらく経験されつつあると思います。それが、市内の様々な場で起こることがおもしろいかもかもしれません。地域会議を一つの足がかりに、小グループでも、地域の事を話し合うことで今までと全く違う視点が出て、将来、役に立つことがあるかもしれません。そのような場作りという点で使えるのではないかという印象を持ちました。

地域会議の機能は、それぞれの地域で課題が違い、パーソナリティ、誰が引っ張るかによって違って来るかもしれません。目立つことで嫌われたりするかもしれませんが、目立つことを目立たないようにするには、皆で集まり、話し合う場として話すことで、そこで目立っても賛同者が出てきたりします。

その点では、がっちりした会議で、課題設定され、議題に沿って進めるより、自由に地域の人たちが集まり、意見交換ができるような会議になるとおもしろいのではないかと考えました。

今後ともこのような議論を続けることで、より良い市の地域会議になるよう、皆様方の知恵を出し合っていただければと思います。